

令和5年7月4日

記者発表



2025年大阪・関西万博に向けた 和歌山県版アクションプランを策定しました！

2025年大阪・関西万博は、約2,820万人の来場者が想定され、日本経済の底上げにつながる一大イベントです。

この万博開催による経済効果を和歌山県にも最大限に波及させ、県内の地域活性化につなげるべく、万博会場に限らず、本県の魅力を国内外に発信し、観光誘客の促進やビジネス機会の創出などに取り組む必要があります。

そこで、本県の取組をまとめた、「和歌山県版アクションプラン」を策定しましたのでお知らせします。

和歌山県版アクションプランとは、
2025年に開催される大阪・関西万博の成功に向け、現時点で和歌山県が実施を予定している取組を取りまとめたものであり、必要に応じ、随時更新を行う。

【主な取組事項】

万博会場

○和歌山ゾーン※の展開

- ・「和歌山百景 ー靈性の大地ー」をテーマに神話時代から続く和歌山の精神文化から育まれた、自然・人・産業・食・文化などの多様な魅力を上質な形で発信
- ※関西広域連合が万博会場内に設置する「関西パビリオン」内に県の出展ゾーンを設ける

○万博会場での催事の取組

- ・催事会場を活用し、県内各地の魅力ある資源や県内の取組などを国内外に発信する催事の開催に向けた企画検討

など

万博会場外

○機運醸成・情報提供

- ・機運醸成イベントの開催及びPR活動
- ・メールマガジンやセミナー開催を通じた県内企業等への情報発信

○誘客への取組

- ・国内外からの誘客に向けた商品造成と誘客プロモーションの実施

○先端技術の実証

- ・空飛ぶクルマの運航実現に向け、安全かつ効率的な運航実証や離着陸場の設置などの体制・環境整備

など



〈アクションプラン〉

担当者 万博推進課 岩崎・庄司

連絡先 073-441-2703

2025年大阪・関西万博に向けた 和歌山県のアクションプラン

商工観光労働部 商工労働政策局 万博推進課

令和5年7月

〈目 次〉

I アクションプランの概要

II 各種取組

- 1 和歌山ゾーンの展開
- 2 万博会場での催事の取組
- 3 県内機運の醸成・情報発信
- 4 誘客への取組
- 5 最先端技術の実証
- 6 国際交流プログラムへの取組
- 7 子供の万博参加に向けた取組

III スケジュール

I アクションプランの概要

I. 万博を推進する意義

2025年大阪・関西万博は、約2,820万人の来場者が想定され、経済効果が約2.9兆円（一般財団法人 アジア太平洋研究所試算）にもなる、日本経済の底上げにつながる一大イベント。「開催期間：2025年4月13日～10月13日」

大阪・関西万博の開催効果を和歌山県にも最大限に波及させ地域活性化につながることを目的に、万博会場に限らず、本県の魅力を万博を契機に国内外に発信し、本県の認知度向上を図り、観光誘客の促進やビジネス機会の創出などに取り組む。

【参考：大阪・関西万博の和歌山県への経済効果】

- ①夢洲会場を中心として開催される経済効果
- ②関西パビリオン出展や機運醸成等による観光消費などの経済効果

トータル 210億円

試算：(一財)アジア太平洋研究所

II. アクションプランとは

- 「2025年大阪・関西万博」に向け、現時点で和歌山県が実施を予定している取組について取りまとめたものであり、必要に応じ、随時更新を行う。

1. 和歌山ゾーンの展開

関西パビリオン 概要

コンセプト

いのち輝く関西悠久の歴史と現在

出展参加の主体： 関西広域連合

出展参加府県： 滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、**和歌山県**、鳥取県、徳島県、福井県、三重県

基本構成：

- ① 関西全体を表現する展示スペース
- ② 出展参加府県による独自展示スペース
- ③ WEBパビリオン

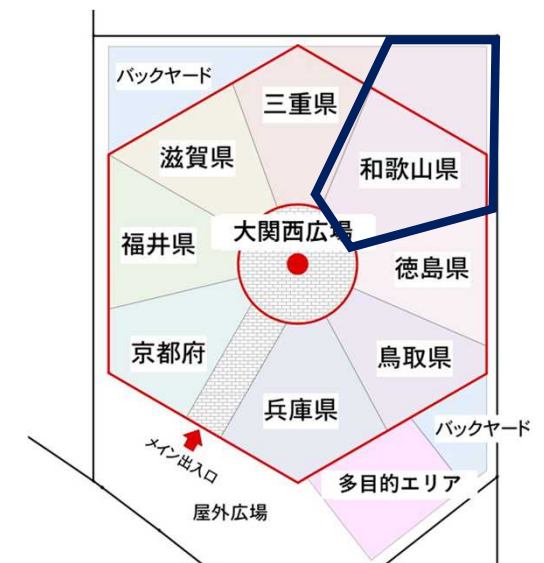
会場地図



< 関西パビリオンイメージ >



< 内部レイアウトイメージ >



(提供：関西広域連合)

1. 和歌山ゾーンの展開

テーマ

和歌山百景 — 靈性の大地 —

神話の時代から続く和歌山の精神文化から育まれた、自然・人・産業・食・文化などの多様な魅力を「和歌山百景」として表現

コンセプト

“上質”のつまった和歌山

I. 出展の意義

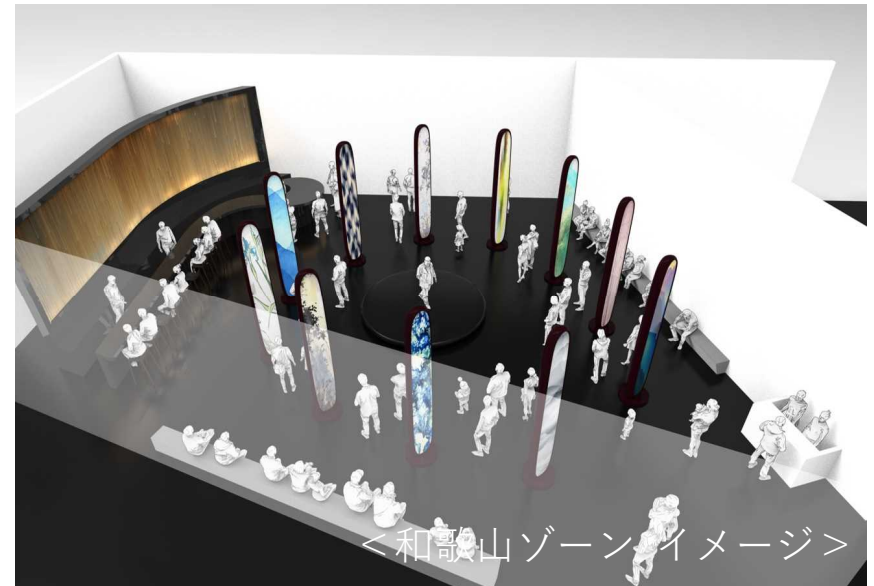
○和歌山県が育んできた精神文化は、多様な価値観を尊重し合う「持続可能な世界」を実現する日本的モデルとなり得ると考え、これを展示によって表現します。

II. 展示構成

- 紀伊山地の巨木も彷彿とさせる、そびえ立つ映像のタワー「トーテム」を環状に配置した空間構成で、神聖な空間を演出します。
- 中央ステージでは「和歌山の今を生きる人」に焦点を当て、多様なパフォーマンスを発信します。
- 飲食可能なエリアとしてカウンターバーを設置し、豊かな和歌山の食の魅力も届けます。

III. 集客目標

30万人



1. 和歌山ゾーンの展開



映像タワー「トーテム」

和歌山各地の美しい自然風景や神話と歴史に因んだシーンなど「和歌山百景」をアートとして表現し、映像化していきます。

アートの映像は、写実とはまた違った魅力で想像を促し、深淵に和歌山の魅力を伝えます。



ステージ

中央に配置したステージでは、和歌山の今を生きる人たちが、トーテムの映像と連携しながらパフォーマンスを行います。

和歌山の伝統芸能や県内産業の魅力を、それを実践する「人」を通して発信します。



カウンターバー

落ち着いた空間を演出し、視覚からも和歌山の食を楽しんでもらえるように、工夫を凝らしたディスプレイを設置します。

美味しいだけでなく、芸術的な演出を含め感動してもらえる食を提供します。

2. 万博会場での催事の取組

I. 催事参加に向けた取組

- 和歌山県の認知度向上に繋げ、誘客の促進やビジネス機会の創出を目的に、万博会場内の催事会場を活用し、県内各地の魅力ある資源や県内の取組などを国内外に発信する催事の開催に向けた企画検討

II. 催事会場での催事内容案

【和歌山DAY（仮称）】

- 和歌山県の歴史や文化など多彩な魅力をステージパフォーマンスにより発信
 - （例）・歴史や伝統文化×先端技術で表現
 - ・学生や県ゆかりのアーティストによるパフォーマンス

【和歌山WEEK（仮称）】

- 和歌山県の地域未来を考えるきっかけとなり、さらなる地域振興や観光促進に繋がるよう、地域の活性化に向けた県内の取組を発信
 - （例）・各分野での課題への取組に係るシンポジウム
 - ・地場産業、食文化、伝統芸能、森林保全など展示や物販を通じて紹介

2. 万博会場での催事の取組

催事会場

ギャラリー

展示面積:約500㎡

アニメ、ファッション等の展示会を会期中入替で実施可能

小規模なステージ

ステージ面積:約50㎡

(数か所設置予定)

音楽、トークイベント、祭り等会期中入替で実施可能

大催事場

座席数:約2,000席 劇場型ホール
音楽、演劇、芸能、未来型エンターテイメント、テーマフォーラム等の劇場催事を実施可能

屋外イベント広場

収容人数:1万人規模

大型ライブイベント、映像上映、祭り等の屋外催事を実施可能

小催事場

座席数:約500席

ナショナルデー・スペシャルデー式典、音楽、演劇、芸能、未来型エンターテイメント、テーマフォーラム等の劇場催事を実施可能
【日本伝統文化エリア】

芝生広場、屋外小舞台、1階展示場
茶道、華道、歌舞伎、能、句会等日本の伝統文化の催事を会期中入替で実施可能

メッセ

展示面積:約4,000㎡

様々な展示会を会期中入替で実施可能

会場配置計画

2022年7月時点

色凡例	
■	タイプA (国・民間企業)
■	タイプB (国・民間機関)
■	タイプC
■	テーマ館

※施設の規模や仕様は現時点の想定のため、今後変更する場合があります

2025年日本国際博覧会協会資料抜粋

3. 県内機運の醸成・情報発信

I. 機運醸成

【2025年国際博覧会和歌山推進協議会※】

- **機運醸成イベントの開催**(テーマ事業プロデューサーと連携など)
- 県内各地で開催される イベントなどに出展しPR

【和歌山県】

- 博覧会協会の教育プログラムを通じた 小中学校へのPR
- 各市町村でイベントを開催するなど、県内全体での機運醸成に向けた働きかけ
- 広報紙や広報番組、看板の設置などの啓発活動

II. 情報発信

【2025年国際博覧会和歌山推進協議会※】

- メールマガジンを活用した **県内企業等へダイレクトな情報発信**
 - ・ 博覧会協会に関する 情報(会場整備・催事参加・営業参加など)
 - ・ 和歌山県に関する 情報(和歌山ゾーンや催事の情報など)
- **セミナーの開催**

※2025年国際博覧会和歌山推進協議会とは

万博の成功に向け、機運醸成を推進し、県内への誘客促進や企業等への情報発信を目的に、和歌山県商工会議所連合会、和歌山県を中心に、産学官金などの団体により構成された組織

4. 誘客への取組

◆ダイヤモンドイヤー（※）など、ビッグイベントを活用した機運醸成

※2023年弘法大師御誕生1250年、2024年世界遺産登録20周年、2025年大阪・関西万博

I. 国内からの誘客

○国内誘客に向けた商品造成と誘客プロモーションの実施

- ・滞在期間延長と消費拡大を目指した体験コンテンツの掘り起こしと磨き上げ
- ・首都圏・京阪神を中心とした情報発信、教育旅行等の誘致活動
- ・博覧会協会と連携した誘客プロモーションの実施

II. 海外からの誘客

○国ごとに万博×和歌山周遊プランを作成し、旅行会社・メディアに売り込み

- ・海外の旅行会社・メディアを集中的に訪問、旅行博覧会などに出展
- ・県内事業者と海外事業者との商談会を実施
- ・世界的メディアを活用した情報発信
- ・サステナブルツーリズム、アドベンチャーツーリズム、高付加価値旅行等の推進
- ・チャーター便・クルーズ船の誘致

5. 最先端技術の実証

I. 空飛ぶクルマの運航実現

○大阪・関西万博における遊覧飛行など空飛ぶクルマ（※eVTOL）の実証運航

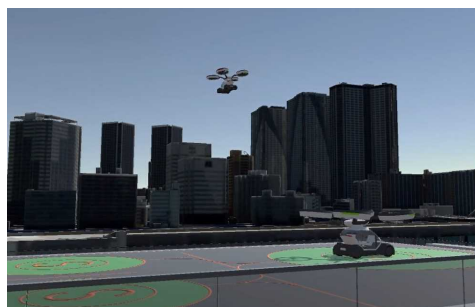
- ・万博会場から県内までの安全かつ効率的な運航の実証
- ・空飛ぶクルマの飛行に必要な離着陸場の設置などの体制・環境整備
- ・空飛ぶクルマへの社会受容の醸成に向けた県民などへの情報発信

○万博後における商業運航としての活用

※eVTOL (Electronic Vertical Take-Off and Landing aircraft) とは

垂直に離着陸し、ヘリコプターやドローン、小型飛行機の特徴を併せ持つ電動の機体

<ポートイメージ>



<空飛ぶクルマイメージ>



出展：経済産業省ウェブサイト

(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/aam_eng.html)

6. 国際交流プログラムへの取組

万博を契機とした国際交流による交流人口の増加及びグローバル人材の育成

I. 概要

- 和歌山県内の各地域と関係性のある、または今後関係性を築きたい万博参加国を**招聘**し、各地の文化や産業などでの交流を深め、地域の活性化につなげる
- 万博開催を機に来日する海外青少年と県内学校の生徒が、事前のオンライン交流や来県時の学校訪問により相互交流する機会を創出するとともに、和歌山県の自然・人・産業・食・文化などを体験させる

【学生交流イメージ】

① オンライン交流

- ・オンラインで県内学校と交流（和歌山や各学校の紹介など）

② 万博会場での学び

- ・万博の和歌山ゾーンや催事にて、和歌山の文化・産業・観光資源などに触れることで、和歌山への理解度を深める

③ リアルな和歌山体験

- ・県内学校との交流（万博テーマに沿った意見交換など。ex. SDGs）
- ・農家民泊による和歌山の自然体験
- ・高野山や那智の滝など観光地訪問

7. 子供の万博参加に向けた取組

I. 万博に向けた事前教育

○博覧会協会の教育プログラムを通じた小中学校へのPR 【再掲】

○大阪・関西万博への認知度および理解度の向上の促進

- ・ワークショップなどの開催
(テーマ：いのち・SDGs・未来社会など)



II. 万博への参加促進

○万博に参加し、未来への礎となる体験の提供

- ・「未来社会の実験場」として、最先端技術やSDGs達成に向けたチャレンジなどが展開される万博を直接体験し学ぶ機会の創出
- ・万博会場内の和歌山ゾーンや催事での参加機会を検討

Ⅲ スケジュール

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度以降
和歌山ゾーン	<p>展示設計（基本・実施）・製作・施工</p> <p>運営計画策定</p>	<p>運営マニュアル策定・準備</p>	<p>現場調整・管理</p> <p>運営</p>	<p>撤去</p> <p>レガシー活用</p>
催事	<p>催事企画案 検討・提出</p> <p>催事シナリオ 検討</p>	<p>登壇者等との調整のもと開催（開催時期未定）</p>		
機運醸成・情報発信	<p>イベント等企画・開催</p> <p>県内各地のイベント等にてPR・メールマガジン等を活用した情報発信</p>	<p>プレ万博企画・開催</p>	<p>大 阪 ・ 関 西 万 博 開 催</p>	
県内誘客	<p>国内外へプロモーション</p>			
最先端技術 （空飛ぶクルマ）	<p>実証実験に向けた体制・環境整備</p> <p>離着陸場の設置可能性調査・飛行ルート等検討、社会受容に向けた情報発信</p> <p>県内外の自治体や事業者等のステークホルダーとの連携、先端技術との連携</p>			<p>商業運航 （2030年 以降）</p>
国際交流プログラム	<p>各市町村と連携し、ホスト国の検討・プログラム企画・応募</p>	<p>ホスト国との交流</p>		
子供の万博参加促進	<p>万博への事前教育促進</p>	<p>万博参加促進</p>		